

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100642		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)		
所在地	〒020-0824 盛岡市東安庭1丁目23-70		
自己評価作成日	令和2年8月15日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では「共に和み共に生きる」という理念のもと、出来る限り利用者様に寄り添って一緒に生活することを重点において支援しております。利用者様、ご家族のご意向をお話する機会を多く持つことによって確認し、可能な限り希望に近づけられるように心掛けております。職員の接遇に関しては利用者様が安心して生活が送れるよう声掛け、対応ができるように勉強会を実施するなどしております。また、協力医療機関、訪問看護ステーションと連携を図り、体調不良等が見られた際でも、利用者様、ご家族がなるべく安心出来るような環境を整えております。また、同一敷地内にサービス付き高齢者向け住宅もあり、緊急時や行事の際に協力がとれる体制となっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺にはスーパー、歯科、内科・外科クリニック、道路を挟み閑静な住宅街が存在し、敷地内には同法人の運営するサービス付き高齢者住宅が隣接している。「共に和み、共に生きる」を理念とし、利用者様に寄り添いながら、思いや意向を受け止め、また家族の意向や話しを聞く機会を多くし、安心して過ごせるよう努めている。全職員接遇の研修や身体拘束をしない為の「適正化委員会」も積極的に取り組み、日々、利用者に対して細やかな気配りの対応に励んでいる。職員間でのコミュニケーションも取れ、会議や話し合いを進めながら支援をしている。協力医の訪問診療、訪問看護ステーションとの医療連携も出来ていて、重度化や看取りに向けての取り組み体制も十分に取れている。コロナ禍で地域との交流を控えている事もあるが、天気の良い日は散歩をしたり、バーベキューをする等、外気に触れる機会を作る工夫もしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」を理念に掲げ、利用者様、ご家族の意思を尊重し、寄り添いながら笑顔で皆が生活できるよう取り組んでいます。	全職員、事業所の理念「共に和み、共に生きる」の意味を十分に理解し、基本そのものであると自負しながら、実践に繋げている。新しい職員は研修を積み、理念を理解し共有してから現場実践としている。理念は玄関に掲示し、日々確認をし実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域にも広報を作成した際には配布するようにしています。また、地域の保育園の園児の定期的な慰問等で交流を深めています。	町内会に加入しており、3ヵ月毎に事業所発行の広報紙を回覧して頂いている。地域との交流の場として定着していた夏祭りやボランティアの受け入れ、保育園との交流はコロナ禍のため中止となり、敷地内の事業所同士、事業所内での触れ合いだけとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を通して認知症の利用者がどのように生活しているかを理解を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は町内会長様や民生委員、ご家族、地域包括支援センターの方に参加を呼びかけております。運営に関しての意見や助言をいただいております。	2ヵ月に1回土曜日に開催している。委員は家族、町内会長、地区民生委員、駐在所、地域包括支援センター職員で構成され、法人幹部、隣接事業所の所長も出席している。会議では、利用者の状況、ヒヤリハット報告、運営状況等が話され、委員の方々からは、意見や助言を伺い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査に来ていただいたり、入所案内をしていただいたり、分からないことがあれば相談に応じさせていただいております。また、市主催の介護保険施設集団指導等行政の会議にも参加するようしております。	市や地域包括支援センターとは、市主催の研修会の開催等の情報や、認定調査に来ていただいたり、入居案内をして頂く等、また分からない事があれば相談したりして、協力関係を築くようになっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する指針をもとに定期的に研修を行っております。グループ全体でも「身体拘束排除宣言」をしています。	身体拘束適正化に関する指針を玄関に掲示し、研修と3か月に1回の会議を開催し、拘束しない取り組みを行っている。参加できない職員も、議事録で確認をし共有しながらケアに努めている。転倒防止のために、家族の了承を得てセンサーマット、人感マットを設置している。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとなっている。不適切と思われる言葉遣いに気付いた時は、管理者がそのつど気付かせ、注意喚起を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人の福祉事業部より介護関連に関する新聞が資料として届いているので各職員はそれに目を通すなどしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が選定されている利用者様がいることもあり、権利擁護に関心を持ち、用意した資料に目を通し、学習する職員もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所が決定した際には毎回ご家族に契約書・重要事項説明書、その他の書類も時間をとり必ず説明するようにしております。また、不明な点がある際はいつでも問い合わせくださいと伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で来所された際に意見交換を行うようにしています。また、玄関にはご意見箱を設置しております。	面会等の来所時に何うようにしている。現在は利用者の様子や消耗品等の用事で電話連絡する事が多く、その中で意見や要望を伺っている。毎月担当者が作成する「たより」の他に、「あったかいご通信」を3か月毎に発行し、家族からの意見や要望を伺うようにしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別面談を行い、職員の意見や提案を聞くようにしています。また、定期的に会議やカンファレンスを行う際にも意見交換するようにしています。	年2回自己評価シートをもとに、所長と職員の面談があり意見や要望を聞く機会にもなっている。また職員間のコミュニケーションも取れ、日々業務の中で気付いた事や要望等を話し易い関係にある。意見が出たら取り入れ、まず“やってみよう”の姿勢で取り組んでいる。職員参加による運営(三協アメンバー経営)に取り組み、ケアの質向上に効果を挙げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や経験年数による給与アップ、系列他事業所での体験や研修等を行い、向上心を持って働きがいのある環境を提供できるように努めております。また、契約社員やパート職員が正社員になれる正規社員登用制度も取り入れてます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な全事業所共通の勉強会や役職に応じた研修会を実施しております。また、系列事業所との交換研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、体制に無理が生じない時には研修会等に職員が参加できるように努めております。また、系列事業所とは定期的に連絡を取り、系列事業所での勉強会に参加したりしております。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人とお会いし、状態を確認するようにしています。また、どのように生活されたいか等、ご本人のご意向もお聞きするようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後来所された際またはお電話にてご意向を詳細に確認し、出来る限りご意向に沿う形で対応できるよう努めています。また、体調の変化や外傷、トラブル等が見られた際にも都度ご家族に連絡し、状況を報告しています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際にご本人、ご家族にご意向や身体状態を確認し、必要な支援の方法を考え、提供するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力を確認しながら無理のない範囲での家事等の役割を担っていただき、共に生活しています。また、昼食、夕食を一緒に食べることで暮らしを共にする雰囲気作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ無理のない範囲での定期的な面会を呼びかけています。また、行事や通院、運営推進会議等への参加、協力を案内状や電話等も用い、呼びかけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体調に問題がなければご希望時にご家族と外出していただいています。また、馴染みであったお店やご近所などへも職員の対応が可能な際はご連絡しています。	コロナ禍で面会禁止となる前は、家族との外出を勧めていたが、現在、家族は職員と玄関先で話し合うだけになっている。2か月に1回の訪問美容師や、毎週訪問する看護師、毎月2,3回訪問診療に訪れる医師、マッサージ師が、馴染の関係となっている。家族との触れ合いがなくなったことから、テレビ電話の利用を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間でお話が成立しづらい時やトラブルになりそうな際は、職員が仲介し、関係を取り持つように対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に施設に来所された方はおりませんが、他施設や病院等、移動先との情報確認等は適宜行っております。		

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際にご本人に施設での生活に対するご意向を確認しています。また、お話をすることで信頼関係を深めていき、本心を汲み取れるような雰囲気作りを心掛けています。	入居時に利用者や家族から、事業所での生活について意向を伺っているほか、日々の生活の中で信頼関係を築き、利用者の気持ちを汲み取るようにしている。介護度が重い方も多く、看取り対象の利用者も3名いる。職員間で日々情報の共有を図り、支援に努めている。居室担当者は、日々細やかに接し、生活用品の管理やチェックをすると共に、利用者の様子を記録し、家族へ報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にご自宅、または施設でのご様子を確認したり、他事業所、医療機関等と情報交換を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子や状態をチェック表と生活日誌を活用し記録しています。また、定期的にケースカンファレンスを開催し、職員間で情報の交換、共有を行っています。また、記録として残し、いつでも確認が出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケースカンファレンスを開催し、職員間で情報の交換、共有を行っています。また、今後の支援方法等についても検討しています。	計画作成担当者がモニタリングを行いその結果に沿って原案を作成し、居室担当者を中心に話し合いながら、利用者に対応しい介護計画を作成している。毎月のカンファレンスで情報の交換や共有を図りながら、3ヵ月毎に見直している。見直しに当たっては、医療、家族、職員の意見も入れながら検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態を個別に記録し、申し送り等にて情報の交換、共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の協力医療機関や訪問看護ステーションと連携を図り、体調不良時、緊急時には診ていただいています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町内会に広報を届けるなど、当施設を認知していただき、何かあった際には協力いただけるよう呼びかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様はご本人、ご家族の同意のもと、近隣の協力病院に診ていただいております。訪問診療での対応もお願いしています。その他、ご家族が以前からのかかりつけ医に付添い通院されている方もいらっしゃいます。	ほとんどの利用者は協力医を受診し、1名のみが家族が同行して従来のかかりつけ医を受診している。受診の際は、利用者の様子を口頭で伝え、受診結果は記録している。利用者は、毎週火曜日の訪問看護師による健康チェックを受け、隔週水曜日には協力医の訪問診療により適切な医療が受けられるよう支援をしている。結果は職員で共有すると共に、家族にもお知らせしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師による体調確認があり、健康相談、健康管理を行っています(体調不良等があった際には随時対応していただいています)。また、連携記録にて介護職員やご家族が状態を把握、確認できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には入院先の医療機関と情報交換を行い、入院中の生活がご本人にとって安心できるものになるように、また退院後は施設での生活がスムーズに送れるように努めています。面会に訪れ、状態の確認にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に看取りを含めた説明を行い、ご家族のご意向を確認しています。また、状態の変化が見られた際には随時ご家族に報告し、医師、看護師を含めて対応方法について確認する機会を設けています。	入居時に重度化や看取りについての説明を行い、了承を得ている。状態が変化した際には家族に再度説明し、意向に添った支援を行っている。職員は研修を重ねており、看取りの心構えは出来ている。医療機関との連携のもと、常に協力医の訪問診療や訪問看護師による健康チェックをして頂いている。主治医には利用者の状態の変化を家族に説明して頂いている。現在、1階と2階で3名の方が看取りの段階に入っている。	

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応方法を施設内複数箇所に掲示し、把握できるよう各職員で取り組んでいます。また、実際に急変、事故対応にあたった職員から話を聴いたり、記録を確認したり、想定し職員間で対応方法を話し合う等の機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画をもとに定期的に入居者様を交え訓練を行っております。町内会長、民生委員さん等にも参加を呼び掛けています。	春と秋、年2回避難訓練を実施している。消防署立ち合いによる総合避難訓練では、職員を対象に緊急連絡網の確認や消火訓練を行っている。未実施の夜間、地震、水害対応の訓練の実施に向け、課題を整理しているところであり、市のハザードマップで水害対象地域に当たっているため、水害対策計画は作成済みである。駐車場に災害時対応の倉庫があり、食材、飲料水等、必要なものは、駐車場にある災害対応の倉庫に備蓄し、玄関には非常持ち出し用のリュックを常備している。	災害への対応は、日々の生活の中での積み重ねにより習慣化されたものが有益ですが、職員だけでは対応しきれない部分もあり、運営推進会議委員を始めとする地域の方々との理解と協力を頂けるよう働きかけることが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮した声掛けや、人生の先輩として敬意を持った対応を心掛けております。接遇に関しては研修会も行っています。	乱暴な言葉遣いをしないよう心掛け、対応している。接遇の研修を行っており、日々の生活の中の言葉遣いや、入浴の誘い、失禁時の言葉掛けに気を配り、人格を損ねる事のないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に声掛け行い、ご意向を確認できるように努めています。また、上手く言葉で表現できなかったり、理解力に少し難がある方には選択的な声掛けを行うなど工夫し対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、排泄、就寝時間、余暇活動等、声掛けやお誘いはするものの、無理強いせず、ご本人のご意向、ペースを配慮した対応を心掛けています。希望があれば、可能な限り外出、買い物等へもお連れしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を確認して訪問理容にきていただいたり、爪切り、髭剃り、整容のお手伝いをしています。		



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人やご家族に食事の好みを確認しています。また、季節にちなんだ献立を考えたりと、利用者様に楽しんでいただけるよう努めています。利用者様には出来る範囲でテーブル拭きや食器洗い、食器拭き等お手伝いしていただいています。	朝食は配食サービスを利用し、昼食と夕食は利用者の好みに合わせ職員が交代で調理している、昼食は両ユニットで相談し合い、遅番担当者が同じ献立を調理している。夕食は、それぞれの冷蔵庫にある材料をもとに調理し、職員も利用者の介助の様子を見ながら一緒に食事をしている。食事時には、BGMを掛けながら、楽しく食事が出来るよう努めている。利用者の調理への参加は難しくなってきたが、テーブル拭きや食器拭きを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表にて食事、水分摂取量が把握できるようにしております。また、主治医の血液検査にて状態を把握しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前に口腔体操を行い、嚥下咀嚼能力の維持が図れるよう努めています。また、毎食後口腔ケアを行い、義歯洗浄も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録表で排泄間隔、パターンを確認しながらトイレ誘導を行い、少しでも不快感を取り除けるよう、また、自立に近づけるよう支援を行っています。また、パットやオムツの適正使用についてもケアカンファレンス等で話し合っています。	排泄チェック表で排泄間隔やパターンを把握し、トイレ誘導をしている。2階では、入居時リハビリパンツであった方が布パンツに移行出来た例もあるが、大半はリハビリパンツ、パット又はオムツを使用し、見守りが必要の方が多い。1階では、ほとんどの方がリハビリパンツを使用しているが、自立してトイレで排泄している方が多い。失敗した際にはシャワー浴で清潔を保つよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維の入ったものを多く取り入れたり、水分をこまめに摂っていただいたり、オリゴ糖入りの飲料やヨーグルトを提供したりと便秘解消されるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	少なくとも週2~3回の入浴機会が持てるよう対応しています。体調に考慮したうえで、ご本人の希望や身体の汚染状況等に応じて入浴対応しています。また、重度の方に対しては複数職員での介助にて対応しています。	週2.3回、一人30分を基本に入浴している。入浴を嫌がる利用者には、朝ご飯の前や、その日の気分や体調に合せながら、いろいろ工夫し対応している。車椅子の方や介護度の重い方には、2名の職員で介助したり、清拭にて対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後より照明の調整を行ったり、テレビの音量を小さくしたり、就寝前にホットミルクを提供したりと、安眠できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、内服薬の理解を図っています。また、薬の変更時には主作用と副作用を把握できるよう業務版に挟んで確認できるようにし、ご本人の疾患と関連し、緊急の対応に役立てられるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、歌唱、踊り、散歩等、利用者様が個人もしくは集団で楽しめるような余暇時間を設け、生活の張り気分転換が図れるように取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調等を考慮したうえで家庭菜園や草取りを行ったり、散歩に出かけたりしています。また、ご家族との外出や、季節行事としてお花見や紅葉ドライブ等も行っています。	天気の良い日には、利用者の体調に合わせ、散歩や家庭菜園の草取りを行っている。コロナ禍のため今まで季節感を覚える機会としていたドライブが出来なくなり、また家族との面会、外出も困難となってきている。そのため、万全な感染予防対策のもとで外気に触れる機会を持てるよう、ドライブ等の復活を前向きに検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持している方はいませんが、希望される方についてはご本人が管理できる範囲で現金を所持いただいている(金額が大きい場合はトラブルのないようご家族に確認し一部管理しています)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった際にはご家族に電話を繋いだり、年賀状や手紙を書いていただいたりしています。		

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる装飾物や行事写真等を掲示しています。また、照明や冷暖房は適宜調整し、利用者様が快適に過ごせるように努めています。	1、2階とも同じ構造で、食堂を兼ねたホールには、テーブル、ソファ、テレビが配置され、利用者は自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。室内はパネルヒーター、エアコン、空気清浄機、加湿器等で適温に保たれている。壁面には、ぬり絵や折り紙の好きな利用者の作品が飾られ、また季節感が感じられるよう利用者と職員と一緒に作ったものを飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫されている。職員の顔写真がそれぞれの階の入り口に掲げられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ前にテーブル、ソファを配置し、気の合う方同士で過ごせるように配慮しています。また、事務所脇にはベンチも設置し、思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の慣れ親しんだ環境に近づけられるように、使い慣れたタンスや衣類、家電、ご家族の写真や手紙等ご持参いただき、配置しています。	居室には電動ベッド、マットレス、クローゼット、洗面台が備え付けられ、エアコンとパネルヒーターで室温を管理し、快適に過ごせるよう室内環境を整えている。寝具や衣装ケース、化粧箱、ラジカセなど、使い慣れたものを持ち込み、壁には家族の写真やカレンダーを掲示し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、所々に手すりが設置されております。居室入り口には表札があり、ご自身のお部屋がどこなのか把握しやすいように配慮してあります。また、トイレには目印をつけております。		